

2010年(平成22)12月

カルメル  
霊性センターニュース



12月

260号



## 第一巻

### 第十九章 よい修道者の修行

#### 4 良心の糾明

絶えず潜心ができないなら、せめてときどき、少なくとも一日に二度、朝と晩とにそれをおこないなさい。朝には決心をし、夕方には良心を糾明し、言葉、おこない、考えにおいてどうであったかを調べなさい。あなたはおそらく何度も、それらのことで神と隣人とを侮辱したにちがいないからである。

悪魔のたくらみに対して、勇士のように武装しなさい。(エフェソ6・11 参照) 飲食を節することができれば、ほかのすべての邪欲をもっと容易に抑えることができるであろう。まったく何もしないでいることのないようにしなさい。読む、書く、祈る、黙想する、または皆のためになることを何かおこないなさい。しかし、体の苦行は慎重におこなうべきで、誰でも同じようにしてよいわけではない。

#### 5 共同の祈りと個人の祈り

共同でない修行は、外に見せびらかしてはならない。個人としての修行は、ひそかにおこなうほうが安全である。しかし、共同の修行を嫌がり、自分一人の修行に身を入れることは避けなければならない。むしろ、命じられた義務を忠実に果たしてから、まだ時間が余っているなら、自分一人の信心をおこなってもよい。

同じ修行が誰にでも適当だとはいえない。この人にはあれ、あの人にはこの修行がより有益である。また、季節によって修行を変えるのもよい。ある修行は、祝日に、ある修行は平日におこなうほうが適している。誘惑の時に必要な修行もあり、平和で無事な時に必要な修行もある。悲しい時にふさわしい考えもある。主において喜んでいる時にふさわしい考えもある。

心の泉





うまずたゆまず  
イエスを目指しなさい

みことばの英知は  
闇あるいは 甘味さのうちに

自らを示されるでしょう



—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd—

キリストのいのちの勝利に一致するのを待つ間、わたしたちは完全な貧しさのうちにキリストの苦しみの神秘と一つにならなければなりません。\*

キリストが生きられた「喜び・闇・希望の時の神秘」はキリスト者の生活のうちで成就します。死を前にしてキリストは一つのことだけを祈りました。それはおん父とご自身が一つであるように、すべての人がご自分と一つであることでした。キリストとのこの一致はキリスト者にとって不可欠です。神は人となり、わたしたち人間を救われました。

飼い葉桶に置かれた神は そこで涙を流して 泣いていた (・・・)、  
人間の涙は 神のものとなり、よろこびは 人のものとなった、  
それとこれとは(人間の涙と神のよろこび)  
常に 縁のないものだったのに 一一十字架の聖ヨハネ

わたしたちはキリストのものです。イエスはご自分のすべての態度、そしてすべての行いをもってわたしたちを愛されました。そこにこめられているイエスにおける神の強い慈しみの愛を見出します。この愛から何ものもわたしたちを引き離すことはできません。

「ここまで小さくなられた神をわたしは恐れることはできません。わたしは愛する幼いイエスを！」テレーズ

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『神と親しく生きる いのりの道』  
聖母の騎士社、2009

## エデンの園 (2)

九里 彰

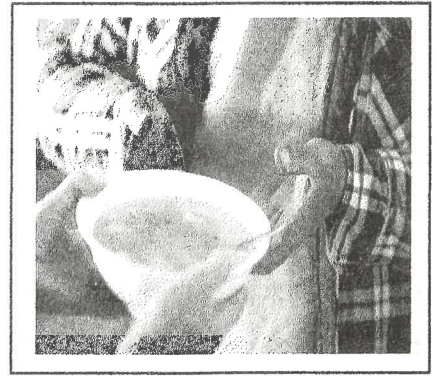
以前は、富める国と貧しい国の経済的不均衡が、社会的不正義の問題として取り上げられていたが、今や、地球規模の環境問題が世界を覆い、もはや経済的に富んでいようが貧しかろうが、どの国もみな共に滅んでゆくということのようである。詩はこう続く。

こんなに早く / 終わりが来るとは  
誰も思ってもいなかったわ  
海に見える家も / きれいなきものも  
ウエッジ テッドに盛った  
美味しいお料理も  
愛し合うことも  
長い時間をかけて  
人間がハッピーになることを / 考えて来たのに  
アンハッピーになることは / こんなにも  
すさまじく早いことなの

世の終わりがやって来るといふ。「海に見える家」や「きれいな着物」、そして「美味しいお料理」、これらは、人間が「ハッピーになること」として捉えてきたものである。つまり、衣食住という目に見える次元で贅沢に暮らせることが、より具体的に言えば、きれいな服を沢山所有し、おいしい食べ物を毎日たらふく食べ、プールや庭園のある豪華な邸宅を持つこと、イコール幸せと、ずっと考えられてきた。そして今もなお考えられている。しかし、これも世の終わりの前には、すべて空しい。

上の詩では、「愛し合うこと」もその中に入っている。これは、キリストが最後の晩餐の席で、「私があなたがたを愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」(ヨハ 13:34)と言われた「新しい掟」の相互愛とは、残念ながら、違う。それは、誤解を恐れずに言えば、神を知らない次元での人間愛であり、半ば動物的な愛だと言ってよい。動物でもわが子を愛し、子を守るために自分の命を賭ける。同様に、自然的な次元での人間愛も、血のつながり、土地のつながり等、仲間内では固く結束するのだが、自分たち以外の者を排除、無視してゆく排他的な側面を含んでいる。

# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (138)



## 奉仕職と靈的生活

イエスのすべての言葉と行いは、御父との親密な関わりから生じています。「あなた方は信じないのか」とイエスは言われます。「私が父の内におり、父が私の内におられることを。私があなた方に言う言葉は、自分から話しているのではない。私の内におられる父が、その業を行なっておられるのである。私が父の内におり、父が私の内におられると、私が言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい」(ヨハ 14:10-11)。

イエスのすべての言葉と行いが御父との交わりから生じているように、私たちの言葉と行いも、イエスとの交わりから生じて来なくてはなりません。「はっきり言っておく。私を信じる者は、私が行なう業を行い、また、もっと大きな業を行なうようになる。…私の名によって願うことは、何でもかなえてあげよう」(ヨハ 14:12-13)。これは、靈的生活と奉仕の生活との間の関係を明らかにしてくれている深い真理です。

(1117)

## イエスの名の内に行動すること

奉仕職とは、イエスの名の内に行動することです。私たちのすべての行動がイエスの名の内になされるならば、それらは永遠の命への実りを生むことでしょう。しかしながら、イエスの名の内に行動することは、イエスの代理とかスポークスマンとして行動することではありません。それは、イエスとの親密な交わりの内に行動することです。名前は、家やテントや住まいのようなものです。それゆえ、イエスの名の内に行動することは、私たちが愛の内にイエスとつながっている場所から行動することです。「あなたはどこにいますか」という問いに対し、私たちは「私は、イエスの名の内にいる」と答えることができるでしょう。従って、私たちが行なうことは何であろうと、奉仕職以外のものではありません。なぜなら私たちの内で私たちを通して行動するのは、いつもイエスご自身だからです。奉仕するすべての人に対する究極的な問いは、「あなたはイエスの名の内にいますか」というものです。私たちがそれに対し、「はい」と答えることができるならば、私たちの生活のすべてが奉仕職となるのです。

(1024)

待降節第二主日 マタイ 3, 1-12

「人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた」(マタイ 3, 5-6)。

洗礼者ヨハネは、自分の活動を、イスラエルの民を神との決定的邂逅のために準備すること、と理解していました。このために、ヨハネは、その宣教の場として砂漠を選んだ、と言えます。砂漠は、預言者たち、特にホセアにおいては、神が背信のイスラエルに憐れみ深く、出会い、和解、赦し、憐れみを施し、刷新された親密さの中に導きいれる場なのです。「それゆえ、わたしは彼女をいざなって荒れ野に導き、その心に語りかけよう」(ルカ 2, 16)。

人々は砂漠の中に「ヨハネのもとに来て」、「来る」と訳出された動詞が強調することは、「出て来る」と言う脱出、出エジプト(エクソドス)を想起させていることです。ここに新しい出エジプトの旅が始まっていることを、福音記者は示唆しているのですし、メシアに向かっての一種の出エジプトを敢行する決意の要請を表現しています。この洗礼者ヨハネに向かって、究極的には、到来する救い主に向かっての脱出は、妥協のない、また、猶予されない決断を迫っているものであり、出エジプトの晩に急いで準備したように(出エジプト 12, 11)、一刻も躊躇は許されないのです。「斧はすでに木の根元に置かれている」。

洗礼者が、その時代の人々に、救い主との出会いにふさわしくあるようにと望み、神との邂逅に準備する唯一の方法として指し示すものは、自分の罪への真摯な悔い改め、改心です。自分の現状、生き方の真剣な見直しです。

現代の安逸と快適さに浸った生活を送っているわたしたちに、「らくだの毛衣を着、腰に皮の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた」洗礼者の様相、生活態度とは、何を語りかけてくるのでしょうか。悔い改めは、感謝と賛美の態度で神との関係に入ること以外にも、他者の痛みをわたしたちを開くことでもあります。悔い改めの最良のしるし、それは、他者、小さい人々への配慮に心を開くことです。世界の現状の中では、洗礼者の慎ましさを模範がわたしたちを招いていることは、節度と抑制を持ってこの世の財を活用し、余剰のもので、あるいは、自分が犠牲としたもので、困窮の中にいる人々を援助することに心をもちいることにあります。消費社会の狂乱に混乱させられることなく、他者と分かち合うことで、救い主への脱出を準備しましょう。ルカ 渡辺幹夫



待降節第3主日(A)

「来るべきかたはあなたですか。」

それとも、ほかのかたを待つべきでしょうか」(マタイ11:2~11)

あなたは列車に乗ると、きっと隣の席の人に「これは〇〇行きの列車ですか」聞くでしょう。そうです、という答えにあなたは安心します。キリストを信じる者として自分たちはこの世の巡礼者にすぎないことを知っています。しかし私たちは自分自身に「私たちは正しい道にいますでしょうか」と問い続けます。不安な気持ちにいる人達はイエスに尋ねました:「来るべきかたはあなたですか? 信じて大丈夫ですか?」

ヨハネの弟子たちは、イエスが「来るべき」人であるかどうか疑いました。そして彼らはイエスに質問をし、イエスは「もし疑うなら行ってあなたが見ていることを彼に告げなさい」と答えました。人生で私たちが必要なことは、霊的なことについての議論や知的考察ではありません。イエスの経験は信仰に基づく内的で、実存的なものです。

イエスの弟子たちにこの質問をさせたもう一つの理由は、好奇心だったに違いありません。「イエスはどのような人ですか? 彼はイスラエルの敵を征服し、以前の栄光にこの地を回復するのでしょうか? 彼は本当に新しいメシアの時代を始める『道』であり『真理』ですか?」という最終的判断のメッセージでした。これに対するイエスの答えは「ヨハネに(私がそうなる主張しているのではなく)私がしていることを告げなさい」です。神のメッセージは「盲人を見えるようにし、足の不自由な人を歩かせ、癩病の人を清くし、耳の聞こえない人を聞こえさせ、死者を生き返らせ、貧しい人に福音を告げる」ことです。

ヨハネへのイエスの答えは、イエスの行為、説教、教え、そして奇跡が旧約の預言者によって告げられた神の王国のしるしであることを示しています。イエスは悔い改めと回心に基づく新しい世の秩序への道を示し、他の人々がついてくるようにお手本を示します。どのように私たちは日常の生活の中で神のみことば、希望のメッセージを実現するのでしょうか、尋ねてみましょう。イエスのお出でになるのを待つ待降節の間、ヨハネを私たちの手本とするべきです: 私たちはヨハネのように神のみ手の道具となり、来るべきお方の証しをし、私たちはそのお方の声にすぎないことを悟らなければなりません。ヨハネのように私たちは祈りの生活をおこない、キリスト者の使命を果たすために準備することで償いをしなければなりません。ヨハネのようにキリストを迎えるために道を平に整えなければなりません。私たちは希望のメッセージを他の人達にも分かち合いイエスのための道づくりの人でなければなりません。

今日イエスがおこなう最大の奇跡は、彼の王国への入り口のための私たちの回心です。イエスは、貧しい人、足の不自由な人、癩病の人、耳の聞こえない人に行ったことを今、違ったやり方、もっと深いレベルで私たちに行ってくださいています。しかし私たちが彼にさせるままにする場合にのみ彼はこの奇跡を行うことができます。イエスは私たちを励まし、信頼心を起こさせるためにヨハネのお手本を与えています。ヨハネは実に難しい使命を持ちました。彼の確固とした信仰と真理への不動の防衛がイエスに「人の中で一番偉大な人」と言わせたほど彼を偉大にしました。私たちが信仰において不動に立ち、勇気をもって真理を証しするならば、イエスは私たちも偉大だと言ってくださいるでしょう。

(Sr. Paulina)

待降節第四主日 マタイ 1, 18-24

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい」(マタイ 1, 20-21)。

ヨセフが、この天使のお告げを受けたのは、許婚のマリアが身ごもっていることが明らかになり、マリアのことが表ざたになることを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心していたときである。確かに、この場合の離別は律法でも許されていることであり、むしろ、律法に厳格に従うことを追求する「正しい人」ならば、自分の家系に出生のはっきりしない子供を入れないためにも、離別しなければならなかった。しかし、ヨセフは分かっていたのでしょうか。このような解決は、表面的な厄介払いに終わり、それは、一人の女性の一生を台無しにする結果をもたらし、自分にも見かけだけの平和しか残さないでしょう。ここに、ヨセフの「正しい人」、旧約の律法に忠実に歩む人から、聖霊により開かれる新しい正しさ、誕生してくる子の十字架の死と復活によってもたらされる神からの正しさへの過ぎ越しがあったと言えます。

ヨセフが自分が巻き込まれている出来事、それがもたらす過ぎ越しの意義を悟ってゆくのは、二つの道を通してです。夢の中の天使のお告げの言葉と預言者の言葉。二つの言葉は、静かに受け止められ、考え合わされることで、共鳴し合って、今、起こっている一つの秘儀、人間にとっては把握が容易でない、むしろ、理解不可能な秘儀、人間にとって痛み、苦しみ、煩悶なしでは接近不可能な秘儀の深さを把握させることになりました。「マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」。

「名付ける」、それは、父親の特権であり、義務でもありました。ヨセフは、太祖アブラハムがイサクをいけにえとしてささげ、独り子を失う決断を通して、神の計画の中で多くの人の父となったように、ヨセフも、父親となることを放棄することで、真実な父親となる、誕生する子、イエスに父親として接することになったのです。そして、彼は、ダビデ家の家系に属する男性としての自己実現の完成に入った真実に神の無償の恵みに生かされる「正しい人」と呼ばれるのです。わたしたちも、誕生される幼子のもたらす救いの恵みの中に真実な自己実現の恵みをいただけますように。

ルカ 渡辺幹夫

## 聖 家 族

” ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去った”

(マタイ 2 : 13・15, 19・23)

聖家族：イエスを囲むマリアとヨセフ、聖家族のご生活について、福音書は何も具体的な様子を伝えてはいません。またいくつかのヒントを除いて、ヨセフについての現実的な情報もありません。しかし私たちはヨセフが神を畏れる人であり、どんなときにも神のご意志を尊重し喜んで実行する人であることを知っています。ヨセフの心は信仰のうちにいつも神に開かれており、神に対して従順で、神のためにはどんな犠牲でも捧げる用意がありました。福音書にあるように、ヨセフは神の命令に従い幼子イエスとマリアを保護するためすぐに“起きました。”ヨセフは聖家族の長として、責任を持つ正しい人として知られています。そしてマリアは、ヨセフが引き受けた全てのことに協力しました。マリアは全ての出来事を大切に心に留め、思いめぐらし続けた方として描かれています。マリアは神のご意志の静かな実行者です。マタイは福音書の中で、この理想的な一家族の姿を、聖三位一体の内なる命の営みの反映として示しています：完全な愛の交わりがイエス、マリア、ヨセフの生活の中で明らかにされました。平和の君であるイエスは、マリアとヨセフを元気づけ照らし、平和と調和、喜びで満たします。ですから今日パウロは私たちに勧めるのです、“キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。”

教会は一つの家族：一人の若い女性が麻薬常用の生活から救われ、教会に受け入れられた喜びに溢れていました。祈りの集いで彼女はこう証言しました：“私は毎日神に感謝していません、神が私を心に留め、憐れみ、救ってくださったことを。私はついに家族を見出しました。私は父母の愛を知らない不幸な家庭に育ちましたが、今、神さま、あなたは私の失っていた物全てを与えてくださいました。”

教会は神の子どもたちの家族です：イエス キリストとその福音を信じる者の集まりです。教会は目に見えない主イエスの、目で見ることの出来る体です。けれどもキリストの体の一員である私たちは、キリストによって贖われた者として真剣に生き、主の宣教の使命を果たしているのでしょうか？私たち家族の生活が、キリストを中心とした、キリストの言葉と行いに従うものであればあるほど、教会は聖家族の精神を反映するものとなるでしょう。

家庭は幼子の笑い、母の歌、父の力、愛に満ちた心のぬくもり、幸せな目の輝き、親切、忠誠、同志の交わり。家庭は幼子の初めての学び舎、初めての教会。何が正しく、善で、愛であるかを学ぶ。

家庭は傷つき病む時に慰めを求めて向かう所、そこでは喜びが分かち合われ、悲しみが癒され、

父と母が互いに尊敬し、愛し合い、子どもたちは望まれ宝とされる、愛に満ちた親切ほど金銭は貴重とされず、そこではやかんさえ幸せを歌う・・・

これこそ家庭といわれる所！神が祝福される場所！

(Sr. Paulina)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) —その10

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフッサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアピラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れたくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉獻し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気の人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

—— 祈り ——

嵐がとどろきをあげるとき  
主よ、あなたが必ず私たちを支えてくださいます。  
神よ、あなたをほめたたえ、こい願います。  
あなたは、私たちを安全に港まで導いてくださいます。  
私たちは、信頼して、あなたの御手を握り、  
揺るぐことなく、安全に立ち、  
波たける海は静まります。

水かさを増した海がおののき、  
堅固な山々が揺らぐとき、  
私たちの人生を照らす光が訪れます。  
あなたに感謝を捧げ、  
あなたの町に住まいを定めます。  
あなたの町を安全にお守りください。  
力に満ちた川は  
そびえ立つ神の砦を守ります。

国々は、狂乱し荒れ狂っています。  
神が御力に満ちた声でお語りになれば  
奢れる者たちのきらびやかさは崩れ去り、  
雷鳴も鳴りをひそめます。  
神が、私たちとともに、ここにいてくださいますから。  
万軍の主よ、あなたはそばにおられます。  
あなたは、私たちの光、私たちの救い。  
私たちは恐れることはありません。

ここに来なさい。あなたはご覧になるでしょう、  
神の力の不思議を。  
神が平和と光をもたらされるところでは、  
不和は必ず消え去ります。  
槍も強力な盾も、  
神の光にはかないません。  
主なる神は、確かに  
求めるすべての人々を助けてくださいます。

\* \* \* \* \*

この記事は、既足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

## マテオ・リッチ帰天 400 周年巡礼、北京の天主教会を訪れて

日本のカトリック教会は、お隣の韓国、台湾、や東南アジアの教会の人たちと広く交流している。中国と日本の関係が政治・経済においてクローズアップされている今、中国の教会との関わりはどうであろうか。多くの人々は、中華人民共和国が成立してから、中国政府の愛国の精神を高揚した統一方針に従い、バチカンとの断交後 1957 年に中国天主教愛国会が樹立され現在に至ることを知っている。従来、教皇の許可がなく、中国政府が独自で司教を選び叙階する方法が政府公認の教会の原則であった。しかし、近年事情は少しずつ変わり、司教叙階は教皇の許可を得て行われることを中国当局も事実上、黙認している。そして現在、中国の司教の大半は、教皇からも認められていることがまだあまり知られていない。また、人々は中国には政府が認めないカトリックの地下教会があることも知っている。そして「地下教会」の司教は政府公認ではなく教皇が認めた司教と判断していた。しかし今は、紆余曲折の中にも変化と歩み寄りが見られており、近年、中国の教会にかかわる人たちは「教会が 2 つに分かれている」とは言わず、「2 つの教会共同体が存在する」というふうに見るようになってきている。この 2 つの共同体とも、ミサに違いがあるわけではなく、両方とも台湾などカトリックの中国以外の中国語圏で使われているものと同じミサ典礼書を用いている。ただ地下教会の場合、ミサは個人宅で行われることが多いようであるが、一方地方によっては教会の聖堂で堂々と行われる所もあり、事情はそれぞれ異なっている。また私達は、今も自由を奪われた生活を余儀なくさせられているキリストの兄弟姉妹の犠牲的奉獻を忘れることはできない。このように、中国のカトリック教会は、苦しみながらも新たな希望の成長期に入っている。

キリスト教を日本へ最初に伝えたフランシスコ・ザビエルは、日本人の思想・宗教性に大きな影響を与えている中国の思想・宗教・文化の存在を見抜き、自ら中国宣教を志したが、入国許可を得られぬまま 1552 年上川島で帰天した。奇しくもこの年にイタリアで生まれたマテオ・リッチは、ザビエルの遺志をついだイエズス会東インド管区の巡察師アレッサンドロ・ワリニャーノの要請を受け、何度も挫折した後、1601 年ついに明朝末期の中国の都北京に入った。リッチは、すでに長年中国語と中国歴史文化を習得しており、相手を低く見てヨーロッパの文化を一方向的に押し付けるのではなく、相手の文化を評価・尊重し、対話と適応による「適応主義」で宣教し、またヨーロッパ文化やキリスト教書を漢文に翻訳し、同時に中国思想文化を翻訳してヨーロッパに紹介している。彼は、日本の教会をも視野に入れた画期的な異文化における宣教を繰り広げた人物であったと思われる。1602 年に出版した世界地図『坤輿万国全図(こんよばんこくぜんず)』等は、日本の当時の自然科学の発展に大きく寄与している。リッチは友愛と交流を重んじ多くの知己を得てカトリック信仰に導くことに成功し、宣教の火蓋を切った。中国人たちはキリスト教とともに、イエズス会員の持つ

天文学・数学・暦法などの豊富な科学知識と芸術に興味を示し受け入れた。1610年に北京で帰天したリッチは、当時外国人としては異例の恩典を皇帝から得て譲渡された北京内の墓地に葬られた。その後、多くの宣教会が教会を建てその民を増やし行った。時代は移り変わり皇帝も統治民族も変わり、押し寄せるヨーロッパ列国と日本の外交・軍事的干渉の中で、世界も国も教会も激しく揺れ動き、加えて国内の排斥・内乱、外国人宣教師追放・教会弾圧・破壊、信徒への迫害と殉教、まさに火と血と忍従で塗られた中国教会の400年の救いの歴史がリッチ後に記されていった。

このような中国の教会の歴史をふまえ、今の体制と状況のもとで、マテオ・リッチ帰天400年記念巡礼団の訪中を知って、初めは複雑な気持ちであったが、反面何か不思議に惹かれるものがあった。そして、2010年11月1日の諸聖人の祝日に、北京の中国共産党の幹部大学である北京行政学院の緑に囲まれた敷地内に62名の宣教師達とともに眠る、ひときわ大きなリッチのお墓の前で花束と祈りを仲奉げられたことは、ことのほか感動的であった。現地の信者の方々も三々五々訪れていた。北京のリッチの屋敷跡は、四天主堂の南堂が建ち、無原罪の聖母の教会で祝日のミサにあずかる大勢の若者と外国人の姿があった。主日に訪れた東堂は聖ヨゼフの教会で、早朝ミサの前に集まったいっぱいの人々で教会の朝の祈りが奉げられていた。死者の日に訪れた北堂は聖フランシスコ・ザビエルの教会で、聖体顕示がなされ、膝まずく2人の正装した司祭の前に信徒達の深い沈黙の礼拝が奉げられていた。そして、北京の一番美しく、広い道路に面したところに建設された優美なコリント風の柱とゴシックのアーチ型の天井からなる、西堂の教会は、「カルメル山の聖母」に奉げられた教会で、その荘厳な、幼きイエズスを抱いかれた聖母とスカプラリオの像を目にして思わず息をのみ、カルメル会士の足跡が、はっきりと今生きているのを知った。

高度経済成長を突っ走ろうとする、膨大な歴史と文化の大国の首都北京の中に、しっかり「カトリック教会」が刻みこんだ礎と、そこに生きた中国のカトリック信徒がいて継承されている。私は、これらの教会の聖堂で人々と共に祈り、ヨーロッパの伝統的な教会を訪問する時とはかなり別の深い思いに駆り立てられる。何度何度も迫害され、閉鎖され、破壊されながら、それでも、現在、教会として生きているのである。

私達が訪れた教会では、現地の主任司祭が私たち一行を皆に紹介し、私達巡礼団同行の司祭はミサを共同司式で奉げるよう招かれた。お別れするとき、どの現地司祭も「どうぞ、中国の教会のために祈ってください。」と口をそろえたように私達に云われたことが、今も胸に響いている。458年を経たフランシスコ・ザビエルの声、400年を経たマテオ・リッチの声でもあろう。

北京の教会のカルメル山の聖母と幼きイエズス、そしてともにあった聖ヨゼフの像は、私達の保護者であり、北京の教会、中国の苦しみながら歩み続ける私達の隣人なる兄弟姉妹の中国の教会の同じ保護者である。どうか祈りで一致していけますように。

小宮山延子

今年の夏に起きたチリ落盤事故による被害者33名の救出は、世界中が固唾を呑んで見守った正に人類にとっての大ドラマとっていいものでした。

地下700メートルという深い深い地中の避難所に、33名の人たちが無事であることが判明したのが、安否を気遣う地上からの掘削機に結び付けられた小さな紙片であったことも、大変に劇的なことでした。

ここから始まった二カ月余りに及ぶ全員救出のさまは、世界中のメディアによって詳細に報じられました。人間の持つあらゆる力が各国から結集されたようです。科学技術、宇宙医学等々、知識、経験、努力、忍耐、熱情、思慮深さ、祈り、愛、・・・あらん限りの力が遺憾なく発揮される様をたくさんの人が見守りました。

地上の現場近くには、父親、夫、息子、兄弟、友人、・・・愛する者の無事帰還を祈り待つ家族らによるテント村が生まれました。

こうしてやがて細い管を通して食物、飲み水などが地下へと届けられるようになり、次いで家族の手紙のやりとりも可能となって、更にはテレビ電話も通じて互いの声を交わし笑顔を交わすことさえ出来て、地下と地上は力を尽くし支え合い励まし合いました。

多くの試行錯誤があったともききますが、救出の態勢は徐々に確かなものへとになっていったのです。

そして遂に最初の一人が小さなカプセルに乗って地下700メートルから無事に地上に立ち、人々はよろこびに湧き立ちました。

それからは次々とカプセルはピストン輸送をして、とうとう33名全員を救出し世界を安堵と喝采に包んだのです。

地上は地上として、地下は地下として、幾多の困難とそれを克服する人間の叡智があった筈です。奇跡と言われたこの救出は私たち人間の偉業と思えて誇らしい感動の出来事でした。

地上から地下へと細い管を通して水や食料が送られ始めてからかなり早い段階だったと記憶していますが、或る日私は台所で手仕事をしていて、耳だけをテレビのニュースに向けていました。突然、アナウンサーのひと言が飛び込んできたのです。「地下からの要望にこたえて十字架などが届けられました」

瞬間、思わず手が止まり息をつめました。



十字架をほしいと云ったのだ、食べ物などと一緒に十字架が地下へ届けられたのだ、そう理解したとき何か胸をいっぱいにし、何かこみ上げてきて今、この時、私は神さまへ顔を向けたいと切に望みました。何をどうしているかわからないままエプロンを着けたままで、主の祈りが唇をついて出ました。

地下700メートルに閉じ込められ絶望的な状況の中で、自分の命をつなぎとめようとする時に、必要と願うものは当然ですがまずは飲み水や食べ物でしょう。医薬品などもなくてはならないでしょう。そして何よりも愛する者の存在、面影はどんなにか生きる命を支えることでしょうか。

そういう中で彼らは十字架がほしい、十字架をくださいと願ったのです。

「要望のあった十字架などが届けられました」アナウンサーの告げるこのひと言は、この時私のもとへも十字架を届けたかのようにでした。

もし、私自身、命綱が切れようとしている時に何を頼みとするのでしょうか。水でしょうか、パンでしょうか、愛する者の面影でしょうか。十字架をくださいと私は云うのでしょうか。きっとこれ等すべてを懇願するでしょう。

しかし、今、ふと気がつきます。深く深く気がつきます。生きることが極限であればあるほど「すべては恵み」ということを知るのだとすれば、本当はこれ等のどれがあろうとも、どれがなかろうとも恵みの内であり、あることと、ないことは常に等価なのだということを。

この身に何かを獲得することが恵みのように思いがちです。しかし、たとえ何一つ得ることが叶わないとしても、それも欠けることのない恵みであるということ。神さまは何が何であっても神さまなのだということ。

十字架の主は何が何であっても共に在るのだということ。

全員救出の完璧な成功を映すテレビの画面を、感動して涙してみつめながらいつしか私はこんな思いに浸されつつ、身を支えるものは何もない虚空のような恵みの中へと引き寄せられていきました。

## 再会

先日、子供寮で例年のように大きなバザーが開かれました。子供寮の子供たちは勿論のこと、修道院の姉妹たち、そして近隣の方々や、誘いを受けた知人、友人の方々が大勢見えられ、しかもお天気にも恵まれて、大盛況のうちに展開されたのでした。私も係りをいただいて、売り子として立っていましたら、ある方のお顔を見て“あら、なつかしい！！”と叫んだ途端でした。その後ろにぞろぞろと、つくし野天使幼稚園時代の宗教クラスのお母様方が、10名も並んで立っているではありませんか！！ 私は“つくし野天使”をやめた後は、同窓会的に集まらない限り、もう再会は出来ないと思っていましたので、ほんとうにびっくりすると同時に、感動に満たされました。久が原地区なら当然のこと、といえるのですが、“つくし野の天使”をやめてから、時間的には、かれこれ半年も過ぎていましたし、距離的には電車・バスを乗り継ぐなら、かつて私が体験したように、1時間半もかかる道程を、わざわざ久が原まで来て下さったのは、ほんとうに感激でした。お天気を幸いに、皆で輪をつくり、子供寮の玄関の石だたみに腰かけて、各自がバザーで買った昼食を口にしながらよもやま話に花が咲きました。お母さん達の近況がわかって、改めて喜びあえたのですが、私としては、その“心のやさしさ”に感動したのでした。（その時は、私もニコニコしながら聴いたり話したりしたのですが、すべてが終わって、みなさんと別れた後には、涙が出たものでした）

そのお母さん達が一人々々分かち合ってくれた話の中の共通点は、“毎日の生活の中には、いらいらしたマイナスも降ってくるが、シスターのクラスでもらった（マイナスをプラスにする方法、しかた）を思い出して、いい方に転換している”ということでした。

そんなにお役にたって、しかも日常の生き方にとけ込んでいるかと思うと、私はまさに“神に感謝”の心で、いっぱいになったのでした。

“皆様がいつまでも お幸せでありますように” と祈らずにはいられない、私にとって大変意義のあったバザーでした。

お告げのフランシスコ姉妹会 S r . 熊田 照子

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (42)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### グラナダ (2)

やはりグラナダでのことです。この話は、5～6年間、聖人に告解していたレオノル・ヴェラ婦人が語ったことです。或る日、聖人は、グラナダの女子カルメル会の面会室にいました。「(聖人は) 突然そこから脱け出し、一つの家に入りました。ドアの後ろに、こっそりと女性が立っているのを見、何をしているのかと問いました。彼女は彼に自分の悪い考えを明らかにし、首つりをしようとしていたところだと言い、このために持ってきていた縄を示しました。

聖人は、この考えから彼女をそらし、彼女を慰め、素知らぬ顔で、もといた面会室にもどりました」。

グラナダでの別の話。グラナダの町でのこと。

聖人はカルメル会修道女の聴罪司祭でした。けれども何らかの特別な理由で行くことができなかつたため、ホアン・エヴァンヘリスタ神父とご託身のペドロ神父を、告解を聞きに行くために送り出しました。

道の途中で、「尊い修道服を身にまとった、年輩の立派な人物」に偶然出会いました。彼は、彼らに尋ねました。

「どこへ、あなた方は行かれるのですか」。

「私たちの会の修道女の告解を聞きに行くためです」。

「告解を聞きに行くことは、よいことです。神さまは、増えつつあるこの修道会のことを、とてもお喜びのことでしょう。ところで、なぜこの改革派の多くの修道院では聖ヨセフの名がつけられているのか、お教えてください」。

「私たちの聖なる母様が、この聖人に対する信心が篤く、この信心を自分の息子たちに残したからです」。

「よく分かりました。彼に良く仕えてください。そうすれば間違いなく、願えば願うほど、彼から与えられることでしょう。私の顔を見てください」。

彼らは彼の顔を見、彼と別れました。そのような人と出会ったことを不思議に思いながら」。

(続く)

# いのちの言葉 11月

心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。

(マタイ5・8)

イエスの教えは、この山上の説教で、始まります。ティベリア湖を見下ろすカファルナウム近郊の丘に登られ、イエスは、ユダヤ教の教師たちがするように腰を下ろすと、群衆に向かって、「幸いな人」について語られました。この「幸い」という表現は、主のみ言葉をさまざまな形で生きた人をたたえるのに用いられたもので、旧約聖書の中には何度も出てきます。

そこで弟子たちはすでに、イエスの語られた「幸いな人」の姿のいくつかを知っていました。しかし、「心の清い人々」は、詩編に記されているように「主の山に上ることができる」(\*1)だけでなく、「神を見る」ことさえできる、というのは、初めて耳にすることでした。このような素晴らしいことに値するほどの「心の清さ」とは、どのようなものでしょうか。これについてイエスは何度も語っておられます。ですから、真の清さとは何かを知るためには、その源でおられるイエスの教えに従うことが求められるでしょう。

**心の清い人々は幸いである、  
その人たちは神を見る。**

イエスはまず、魂を清めるための最高の方法を次のように教えてください。「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」(\*2)と。ですから魂は、宗教的な祭儀を通してというよりも、神のみ言葉によって清められるものです。イエスのみ言葉は、人間の言葉とは異なります。キリストはご聖体の中に現存されませんが、み言葉の中にもおられ、み言葉を通して、

キリストが私たちの中に入ってこられるのです。そして私たちが、み言葉を生き始めるなら、罪から解放されて自由になり、清い心を持つことができるでしょう。

心の清さとは、み言葉を生きた時に与えられる実りです。イエスの言葉はすべて、私たちが執着から解放してくれるものだからです。私たちの心は、神様とその教えの中にとどまっていけない時には、物や人、自分自身に執着してしまうものです。しかし心が、ただ神様に向いているならば、神様以外のものはすべて、消え去っていくでしょう。

このように生きるためには、一日に何度も、次の詩編の言葉を繰り返す言うことが、助けになるかもしれません。イエス、神様に向かって「主よ、あなたにまさる善はない！」(\*3)と仰うことです。特に、私たちの心がさまざまなものに執着してしまい、良くない思いや感情、欲望が生じて、何が善なのか分からなくなったり、心の自由を奪われそうになる時には、この言葉を繰り返しましょう。

また、良くない広告やテレビ番組を見てしまいそうになる時、それを断ち切り、神様に向かって「主よ、あなたにまさる善はない」と言ってみましょう。

このようにして私たちが、神様への愛を改めてはっきりと言い表すなら、それは自分の殻から外に出るための一歩となり、心の清さを保つことができるでしょう。

また時には、自分と神様との間に、活動や人が入り込んで、障害物のように、神様との関係を妨げようとするのを感じるかもしれません。その時

にも、神様に向かって「主よ、あなたにまさる善はない」と言いましょ。

これによって、活動や人に対する私たちの思いは清められ、心の自由を取り戻す助けとなるでしょう。

### 心の清い人々は幸いである、 その人たちは神を見る。

み言葉を生きる時、私たちは自由になり、清くされます。み言葉は愛であり、愛は、その聖なる火で、私たちの意向や内面のすべてを清めてくれます。というのは、聖書にあるように、人間の知性と意思は「心」の中に最も深く根ざしているものだからです。

さらに、イエスが私たちに望まれる愛、私たちが今月のみ言葉にあるように「幸い」な者となることを保証する愛があります。それは「相互愛」です。イエスがされたように、相手のために命をも与える覚悟を持って、互いに愛し合うことです。お互いの愛があるところには、神様がおられ、その交わりの中には、澄みきった清らかな雰囲気が生れます。私たちの中に、清い心を生み出すことがおできになるのは、神様だけです(\*4)。相互愛を生きるなら、み言葉が働いて、実りをもたらし、私たちを清め、聖なる者としてくれるでしょう。

人間は一人では、世の誘惑に負けずに生き続けるのが、難しいものです。しかし、相互愛があるところには、健全な環境が生まれ、私たちは清さを守りながら、真のキリスト者として生きることができるようでしょう。

### 心の清い人々は幸いである、 その人たちは神を見る。

このような心の清さを保つためには、たゆまぬ努力が必要ですが、その実りとして、私たちは「神を見る」ことができます。つまり、自分の生活や人類の歴史の中で、神様がどのように働いておられるかを理解できたり、心の中で神様の声を聞き

取ることができるようになります。また、貧しい人やご聖体の中、み言葉の中、兄弟との交わりや教会の中など、さまざまところで神様の存在を感じ取ることができるようになります。

このように生きることは、「顔と顔を合わせて」(\*5) 永遠に神様を見る時まで、「目に見えるものによらず、信仰によって」(\*6) 歩みつつ、地上にいるうちから、すでに神様の存在を味わうことだと言えるでしょう。

キアラ・ルービック

- \* 1 詩編 24・4参照
- \* 2 ヨハネ 15・3
- \* 3 詩編 16・2参照
- \* 4 詩編 51・12参照
- \* 5 コリント一 13・12
- \* 6 コリント二 5・7

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1999年11月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

#### 連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

# 新刊紹介



## ●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母 (新刊)

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究者である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円 (税込み)

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父 (カルメル修道会司祭)

判型：B6 判並製

ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

# カルメル会の企画案内

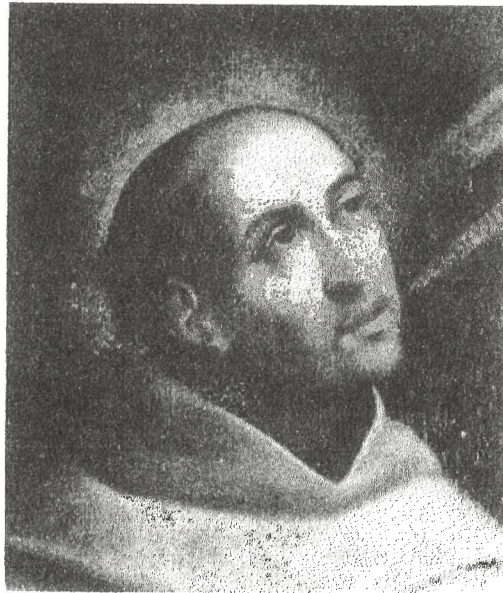






# 十字架の聖ヨハネの祭日 ミサのご案内

12月14日(火)      6:30 ミサ  
                         10:00 ミサと小講話  
                         19:30 晩の祈りとミサ



「神ご自身もまたわたしのものであり、わたしのためでまします。  
だから、わたしの魂よおまえは何を求め何を探すのか…」(小品集から)

現代は、「人間とは何か?」が新たに問われ始めている時代です。人間について、根源的体験の中から語る十字架の聖ヨハネの体験と教えは、現代の闇を照らす「神秘の光」、「沈黙の響き」となっています。16世紀ヨーロッパの大激動期を観想の淵を生きながら時代を導いた十字架の聖ヨハネを共に祝いながら、現代への道しるべを共に探してまいりましょう。

上野毛カルメル会修道院

〒158-0093  
世田谷区上野毛2-14-25  
(東急大井町線「上野毛」駅下車)

## 上野毛靈性センター '10年12月~'11年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

### 1. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

12月27日(土) 夕食~ 1月 5日(水) 朝

中川博道神父

### 2. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

2010年間共通テーマ 《道》

1月20日

荒野をゆく道

中川博道神父

### 3. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日 10時~16時)

2010年

12月17日 リジューの聖テレジア

今泉 健神父

2011年 2月25日

十字架の聖ヨハネ

中川博道神父

### 4. 祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2010 12月24日(金)~25日(土)《講話なし、夕食なし》



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません

のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

## 降誕祭のミサにあずかるための黙想

\* 日時： 12月24日（金）夕食なし～25日（土）朝食語 10時まで  
24日（金）は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕（日中のミサ）にかけて  
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過  
ごしましょう

\* 費用： ￥4000

\* お問い合わせ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
電話：03-5706-7355・FAX03-3704-1764





# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年	11月9日	11月12日
2011年	2月22日	2月25日

<お問い合わせ : [carmel-reisei@hotmail.co.jp](mailto:carmel-reisei@hotmail.co.jp)>

## 聖書講座

## 「キリストとの親しさ」

## —出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして辿ります

担当：中川 博道（カルメル修道会）

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年 12月 7日	12月 10日
2011年 3月 15日	3月 18日

&lt;お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp&gt;



# 「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
7	2010年 9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記 1章~3章
8	10月8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記 3章 14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ 1章 35節~42節
10	11月5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを愛において生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスが伝えたいもの	マルコ 10章 45節
12	12月3日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ 3章 1節~21節
13	12月17日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ 1章 26節~38節
14	2011年 1月7日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ 1章 39節~56節
15	1月21日	「キリストと共に生きる道」(1) 荒野に生きる道を探して	出エジプト記 20章 申命記 5章
16	2月4日	「キリストと共に生きる道」(2) 現代における生き方の模索	マタイ 6章 12節
17	2月18日	「キリストと共に生きる道」(3) 十戒の意味を探して	
18	3月11日	「主の祈り」 主と共に生きる道	マタイ 6章 5節~15節
19	3月25日	「キリスト者の基盤」	使徒言行録 2章 42節
20	4月15日	「秘跡」 生きるキリストに伴われて歩む	

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

～ '10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)
-----------------------------

## 1. 聖書深読

一日 (午前10時から午後4時)

12月11日 (土)

新井延和神父

## 2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

12月15日 (水) 御言葉は人となった

九里 彰神父

## 3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

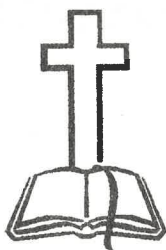
12月 4日 (土)～12月 5日 (日)

渡辺幹夫神父

## 4. 奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日 (月)～ 1月 5日 (水)

新井延和神父



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

## \*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日、改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



## 「カルメルの靈性に学ぶ」

### ～十字架の聖ヨハネの靈性～

1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）  
（いつからでも参加できます。）

2) 日時：毎月一回 14：00～15：30

12月17日（金）第2部17章～18章

土曜日に戻します！

1月22日（土）第2部19章

2月26日（土）第2部20～21章

3) 講師：<sup>くのり</sup>九里 彰神父（カルメル会）

4) 場所：カルメル会宇治修道院 信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel：0774(32)7456 Fax：0774(32)7457



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## 一日常のキリスト教霊性を求めて一

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

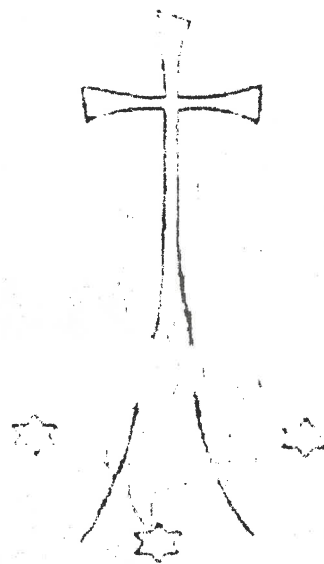
### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

### 【参加者人数】 6名

【開催日】 2011年 1月21日(金)～22日(土)  
 2月18日(金)～19日(土)  
 3月25日(金)～26日(土)  
 4月15日(金)～16日(土)  
 5月13日(金)～14日(土)  
 6月17日(金)～18日(土)  
 7月22日(金)～23日(土)  
 9月 9日(金)～10日(土)  
 10月28日(金)～29日(土)  
 11月11日(金)～12日(土)  
 12月16日(金)～17日(土)  
 2012年 1月13日(金)～14日(土)  
 2月10日(金)～11日(土)  
 3月16日(金)～17日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-38-2543  
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 跣足カルメル修道会HP (International) の紹介

インターネット上には世界的な跣足カルメル修道会のホームページがあります。  
アドレスは <http://www.carmelitaniscalzi.com> です。

ここでは、カルメル修道会の沿革、歴史、聖人の紹介やイタリア、スペイン、アメリカ、フランス、ドイツの各国のニュースなどが、掲載されています。

**WHO ARE WE**  
Our Founders  
Charism/Spirituality  
History

**ADDRESSES**  
Regional Superiors  
Bishops  
Statistics

**THE LATEST**  
News  
Communications

**CURIA**  
General Superior  
Definitors  
General Secretary  
General Procurator  
General Bursar  
General Postulator  
Archivist  
Missions  
Secretaries

**NUNS**  
Addresses  
Theological Project

**DOCUS**  
Documents  
Links

**CONGREGATIONS AND INSTITUTES**

**PUBLICATIONS**  
Magazines  
Editorials

**DOCUMENTS**

**OUR DEAR**  
Friars  
Nuns

**GOD LINKS**

**USER ACCESS**

**News**

**Calendar**  
November 2010  
M T W T F S S  
1 2 3 4 5 6 7  
8 9 10 11 12 13 14  
15 16 17 18 19 20 21  
22 23 24 25 26 27 28  
29 30

**NEW CHALLENGES FOR CARMELITE EUROPE**  
**Meeting of European Provincials concludes in Beirut**

**Communications**  
BEIRUT-LEBANON (30-10-2010).- The Discalced Carmelite Provincials of Europe concluded the Meeting of their Conference in Beirut on October 28. About 40 Major Superiors were present at the meeting, including the Provincial of the Lebanon, the Delegate from Israel, plus the Provincial Delegates or Vicars from missionary areas of Eastern Europe. Fr. ...

**WEEKLY LETTER FOR PARAVOSNACI.COM**  
**Fr. Aloysius Deeney: "Being Carmelite is not a privilege, but rather a responsibility"**

**Communications**  
ROME-ITALY (29-10-2010).- Service of others and concern for them were among the essential characteristics that St. Teresa wished to see in every Discalced Carmelite. For all close followers of the Saint, serving God, the Church and the community, becomes a vital necessity and an aspect of her life that must be imitated. In the paravosnaci web in preparation for the 5th centenary of Teresa's birth, Fr. ...

次号より、随時、抜粋したニュースの和訳を、靈性センターニュースの記事に載せて行く予定です。



**Nativity**  
Lorenzo Lotto

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

### 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

#### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

#### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



**Nativity**  
Lorenzo Lotto

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

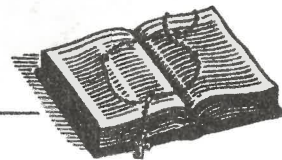
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



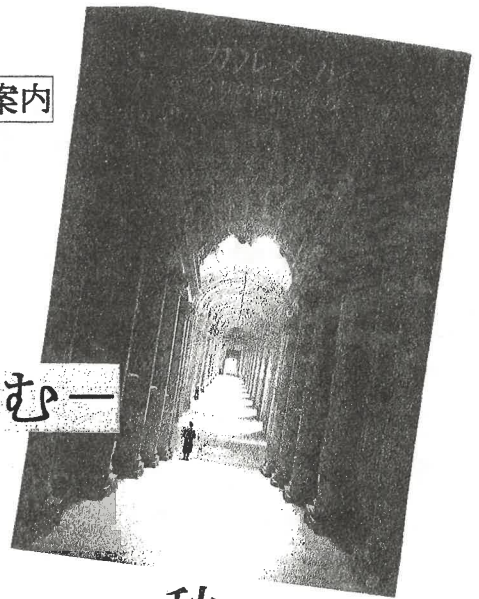
聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



「観想」を読むー

2010 秋 No.338

● 目次 ●

馬屋の靈性 (7)	「恵み溢れる聖マリア」	高橋重幸	2
カルメルの靈性の源流を探して (1)	——その「会則」に見る生活	中川博道	8
三位一体のマリアの歌 (1)	私は愛に渴いている	ベトロ・アロイジオ	15
「どこにお隠れになったのですか」 (5)	——十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路	九里 彰	21
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (4)	マリー・エウジエンヌ	編・訳 伊從信子	27
エディット・シュタインの改宗までの道程	ベアトリス・デクンハ		36
「小さい道」の巡礼者 (10)	テレーズの修練者——三位一体のマリー	中山眞里	44
僕たちを忘れないで		森 みさ	51
愛の断章 (17)		奥村一郎	57

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店、サンパウロ、ドンボスコ書店等) できます。定価は、一冊 460 円です。

- 送付希望の方は、600 円【内訳 460 円 (+送料 140 円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費 (年 5 冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300 円】、送料分【700 円】) として、3000 円を下記へお振込み下さい。

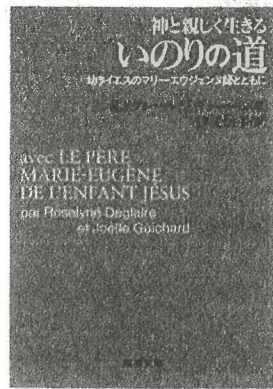
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。)

TEL (03) 5706-8356

# 新刊紹介

## ●「テレーズを愛した人びと」

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェヌヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。伊従信子著 ¥1400円+税 女子パウロ会 214ページ



## ●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェヌヌ師とともに  
本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェヌヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ  
送るメッセージ

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って  
いないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール/J.ギシャール=著

伊従信子=訳 ¥525 聖母文庫 207ページ



# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

## ※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。

# 内案画金の祈請



〇 祈 請 の 心  
 一 切 に 対 し 交 渉 並 び 山 命 眞  
 聖 龍 尊 イ ス イ キ 父 軒 一 ハ ー テ キ サ ー イ  
 ト セ ・ ナ ・ ム セ バ イ ー ン  
 会 文 館 謝 詞 尊 Δ セ バ イ ー ン

祈 請 の 心 ※  
 2009年10月、〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心  
 〇 祈 請 の 心 〇 祈 請 の 心

## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

#### 2010年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

K5 12/01(水)-12/07(火) 東京・小金井・聖霊会

M4 12/10(金)-12/16(木) 兵庫・売布・女子ご受難会

#### 2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

M1 01/10(日)-01/22(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

K1 01/25(火)-01/31(月) 東京・小金井・聖霊会

Y1 02/14(月)-02/20(日) 神戸・須磨・ヨハネ

K2 03/04(金)-03/10(木) 東京・小金井・聖霊会

M2 04/03(日)-04/09(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

★N1 04/30(土)-05/06(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

O1 05/19-05/23 沖縄・伊江島、沖縄県人向け内観

通年テーマ：教父の祈りを学ぶ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

12月9日

ロマノ メロドス

Sr.マリア

## 真命山の霊性

### 自然

神はすべてを作り  
人の手に委ねられた



陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

### 祈り

### 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を  
分かち

### 交わり

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も  
歓迎いたします。

（要予約）



## リーゼンフーバー講座・集いの案内 2010~11年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の  
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリス  
ト教の関係に関心を持っている方、プログラム  
等に関してHP(文末)を見よ。  
12月4日、11日  
1月8日、15日、22日、29日

### ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分  
木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kultウルハイム1階左の  
部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日～1月  
3日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。ど  
なたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も  
可。

### ●坐禅接心 (上石神井)

2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分  
5,900円

### ●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kultウルハイム1階  
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、  
10月20日、12月29日、祝日休)

### ●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時  
上智大学内SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。  
12月11日、2011年1月15日  
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分  
Kultウルハイム1階右小聖堂

### ●黙想

【会社帰りの黙想】  
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。  
(但し、祝日、10月19日、12月28日は  
休。8月24日はKultウルハイム聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日  
10時45分～12時 聖イグナチオ教会  
マリア聖堂 但し祝日、2011年1月4日は休み。

【水曜日】 18時～18時30分  
上智大学内 Kultウルハイム1階右小聖堂。  
どなたでも。但し、祝日休。

### ●黙想会

3月12日(土)10時～13日(日)15時  
上石神井。一泊5900円程度。

### ●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と  
集い、ミサ(14時～18時)、上智大学  
内SJハウス第5会議室 10月16日  
(土)、2011年1月22日(土)

### ●クリスマス会・ミサ 12月18日(土)

16時30分  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、18  
時岐部ホール  
4階 要申込。ミサ 12月23日  
(水)14時～Kultウ  
ルハイム聖堂(80人限定)  
上智大学内 Kultウルハイム聖堂(80人限定)

上述日程等、変  
更の可能性があ  
ります。  
詳細等は、  
下記、リーゼン  
フーバー神父様  
のホームページ  
でご確認  
ください。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

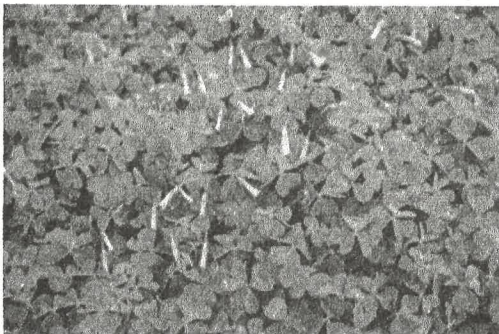
### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座2010年～2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 12/03: 愛の心－キリスト教の本質
- 12/10: 隣人愛－他人の内にイエスに出会う
- 12/17: 希望を持つ勇氣－未来に向かって歩む
- 01/07: 霊の動き－福音による生き方
- 01/14: 秘跡の恵み－毎日を養う信仰
- 01/21: 教会の構造・典礼・歴史－教会と共に歩む
- 01/28: 信徒・司祭・修道者－誰もが召されている
- 02/04: 神の言葉－神との日常的な対話と黙想の仕方
- 02/18: 結婚と独身－愛の道
- 02/25: 仕事という人間の課題－社会と教会に寄与して働く
- 03/04: 人間の苦悩－悪とは何のためか
- 03/11: 死－その実現と克服
- 03/18: 人生の完成－神の内に生きる
- 03/25: 聖母マリア－イエスと共に生きた方



### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2010年～2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

#### イエス

- 11/02: 休み
- 11/16: 死からの命－復活の認識・経験・理解
- 11/30: キリストはだれか－キリスト理解の発展
- 12/07: 御子の受肉－神の子と人の子

#### 聖霊

- 12/21: 神の内的現存－人間における聖霊の働き
- 01/18: 三位一体の神－救いの構造から神内の存在へ

#### 教会

- 02/01: 信仰者の共同体－教会の本質
- 02/15: 救いのしるしと実現－秘跡の意味
- 03/01: 憐れみと愛の祝い－罪のゆるしとミサ
- 03/15: 人間と世界の究極の未来－終末の約束
- 03/29: 信仰者の原型－聖書と教会の教えに見られるイエスの母

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124{直通}

-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

上述日程等、変更の可能性がります。

詳細等は、下記、リーゼンフーバー  
神父様のホームページでご確認  
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」  
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

12月11日(土)  
1月22日(土)(2011年)

講話 伊従信子  
(12月・1月は片山はるひの講話はありません。)

午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
177-0044  
練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)・3594・2247  
Fax(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com  
ホームページ(NEW)  
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

\*\*\*\*\*

「特別年末祈りの集い — わたしは神をみたい」への招き

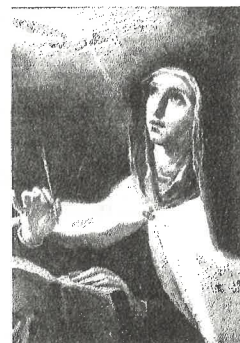
年末の忙しい日々だからこそ、静かなひとときを持ち、  
一年を振り返り、新しい年の希望を新たにしませんか。

12月29日(水) 2時～5時半頃まで 参加費200円

- ・講話 — 『わたしは神をみたい』の著者 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父のメッセージより—
- ・沈黙の祈り
- ・ミサ — 1年を通じていただいた恵みへの感謝と新しい年への祈願を込めて—

お申し込み、問い合わせは上記(ノートルダム・ド・ヴィ)へ  
\*ホームページの『お問い合わせフォーム』も是非ご利用下さい。

\*\*\*\*\*



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地: 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel: 077-579-7580  
Fax: 077-579-3804  
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通: JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程:

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 10年12月27日(月)～11年1月4日(火)
- ② 4月29日(金)～ 5月7日(土)
- ③ 6月23日(木)～ 7月1日(金)
- ④ 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ⑤ 9月23日(金)～ 10月1日(土)
- ⑥ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ⑦ 11月14日(月)～ 11月22日(火)
- ⑧ 11年12月27日(火)～12年1月4日(水) 予定

B. 祈りの体験:週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月11日(金)～ 2月13日(日)
- ② 3月11日(金)～ 3月13日(日)
- ③ 4月8日(金)～ 4月10日(日)
- ④ 5月20日(金)～ 5月22日(日)
- ⑤ 7月22日(金)～ 7月24日(日)
- ⑥ 9月2日(金)～ 9月4日(日)
- ⑦ 12月2日(金)～ 12月4日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月27日(金)～6月4日(土) 裏辻 洋二 師(イエス会)

◎ 対象: 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者: 菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)  
その他 若干名

◎ 申込み: 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他: 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい  
方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# 神の恵みを生きる

イエスの霊に強められる者

決断できない、勇気がない。それはまだつよめられていないから。  
イエスの霊に強められたとき、人は強くなる

2010年度 召命黙想会

日時 **1 月 22日(土) 15:00~**

**23日(日) 15:30まで**

場所 : ノートルダム唐崎修道院  
(JR京都駅から30分)

指導 : 山内 十束 神父 (御受難会)

対象 : 独身女性信徒

費用 : 2,000円

締切 : 1 月 15 日 (土)までに

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

*Sr. 桂川*

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

## 投 稿 募 集

霊性センターでは皆様の投稿を募集しております。

》投稿規程《



- \* 締切り：原則的に毎月10日まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm

\* 原稿はできる限り、パソコン/E-mailでの投稿をお願い致します。

\* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、**tokyo@carmel-monastery.jp**宛にお願い致します。

\* 「心の泉」のコーナーへの投稿は小題をつけて下さい。

\* 「諸所の企画」のコーナーへの投稿は、下記を明記して下さい。

- ①主催するグループ名もしくは個人名
- ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等
- ③月間、あるいは年間の具体的計画
- ④連絡先等

\* 投稿される際は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父 まで、ご連絡をお願い致します。  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院  
Tel (0774) 32-7456 Fax (0774) 32-7457



「カルメル霊性センター」のホームページ

アドレス：<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

インターネットの検索で「カルメル霊性センター」を検索して下さい。

## 『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

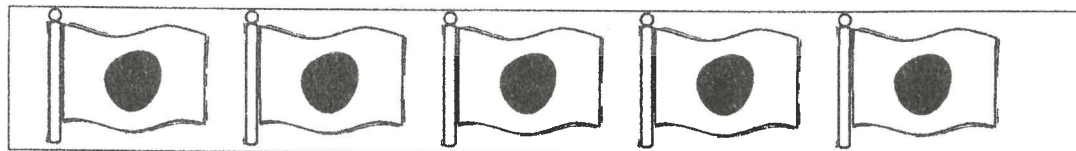
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



### 編集後記

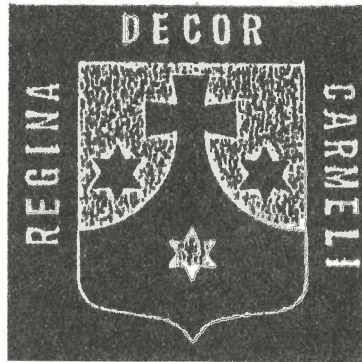
先日、某新聞の一面にノーベル化学賞を受賞された三人の方の座談会の記事がのっていた。その見出しは、「日本発展 科学しかない」というものであった。

たしかに「資源がない日本が、今後も発展するには科学技術しかない」という理屈は、その通りだと思うのだが、以前、資源がない日本には、貿易立国の道しかないと言われていたことが、より先鋭化されただけにすぎないようにも思える。

しかし、憂慮されるのは、科学研究以前の日本社会の状態である。果たして地道に科学研究する人間が育つような社会となっているのだろうか。何の分野でも、最終的に問題とされてくるのは、人間の中味である。その人がどのような人物か、どのような志操の持ち主かによって、そこから生み出されてくるものは、おのずと決まってくる。このことは、芸術や文学では一目瞭然であるが、科学の世界にも通ずるのではなからうか。自分の成功や出世などに囚われている人には、普遍的な地平に立ち、すべての人のために物を考えることは、難しくなるだろう。

また自国の発展だけを目指す考え、あるいはノーベル賞の数を国別で競い合う時代は、そろそろ終わりを告げる段階に入ったのではないだろうか。どの国の人とでも、人間として、兄弟姉妹として共に生きて行くことができなければ、学術研究、技術開発等の分野においても、日本は世界から相手にされなくなるように思われる。

(P. 九里)



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「1月号」製本日                      12月28日（火）    上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171